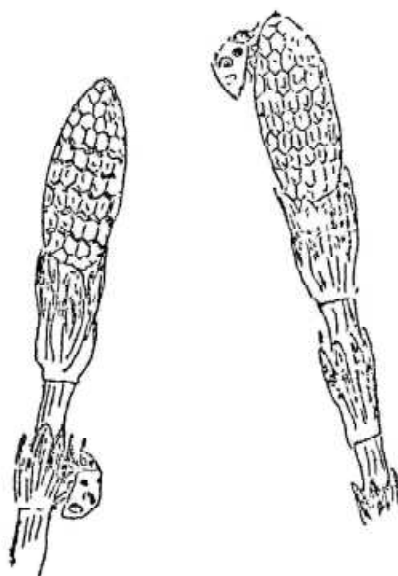

すずむし

Vo1.3 No.3

1953年3月



倉敷昆虫同好会

目 次

○	糸広新床の毒(4に於て)の蝶(I)	松井 俊公	P. 1
○	いせりやかいがらむしの毒	能勢登美子	7
○	遼山東部に於ける <i>Zizina otis</i> u. lyse FENTON シルガイアシジミに就て	安東 瑞夫	13
おとしびみ			
・	オオムラサキ	安東 瑞夫	14
・	本舞のモンシロクモウの初巻	小野 洋	15
・	倉敷のアカスジツクバク	小野 洋	15
○	生とみのむし	小野 洋	15
住所変更・編集後記			16

兵庫縣兵庫郡(中西部)の蝶(I)

松井俊公

アゲハチョウ科 *Papilionidae*

1. *Parnassius glacialis* Butler ウスバシロチョウ
 佐用郡と岡山県との境の山地で27年5月9日2頭採集。また他に七
 割台多く目撃す。本郡発見可能である。
2. *Laeholorphia japonica* Leech ギフチョウ
 本郡は兵庫郡では未だ見ざるが、幼虫らしきものを発見す。兵庫
 県下では産す。発見可能性大なる種。
3. *Menelaides alcinous* Klug ジヤクウアゲハ
 普通種
4. *Papilio xuthus* Linné アゲハ
5. *Papilio machaon hippocrates* C. et R. Felder オアゲハ
 普通種なれど山地性を有す。当地も北郷に多し。
6. *Papilio protenor demetrius* Grauer クロアゲハ
7. *Papilio macilentus* Janson オナガアゲハ
8. *Papilio telonus nicotinicola* Butler モンシロアゲハ
 本郡は目撃することあるが、採集は初めてはなせ、その後のアゲ
 ハの採集の際にも必ず採集しただが、その後の採集はなせ。
9. *Papilio machaon tectanus* Ferris ミヤマシラスアゲハ
 本郡にはあるが、発見は必ずである。(中国山脈を有している為)
10. *Papilio leunor dehaani* C. et R. Felder カラスアゲハ
 山地では普通、採集は吸水中は驛馬である。又群集することがある。
11. *Graphium sarpedon niphonum* Felder オオアゲハ

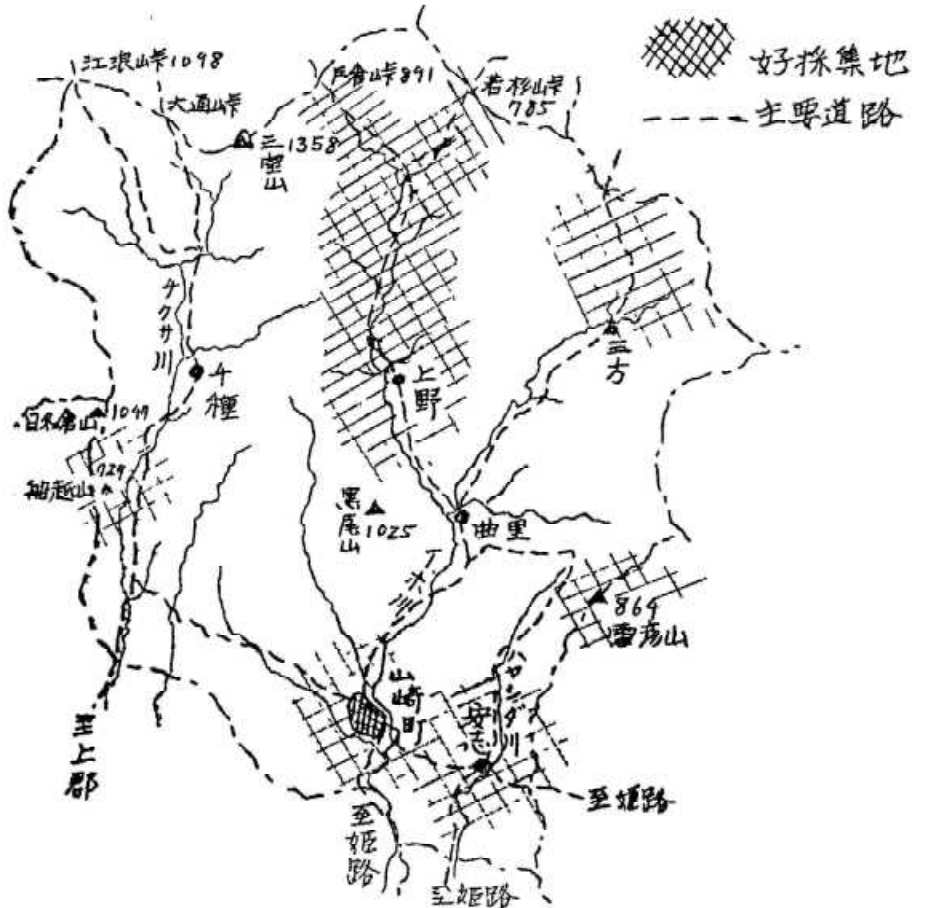
シロチョウ科 *Pieridae*

12. *Pieris rapae crucivora* Boisduval モンシロチョウ

兵粟郡の位置



兵粟郡地図



13. *Pieris meleta* Ménétries スジグロタヨウ
 14. *Anthracaris colymus* Butler ツマキタヨウ
 15. *Colias hyale poliographus* Motschulsky モンキタヨウ
 16. *Eurema hecabe* Linné キタヨウ
 17. *E. lacta bethesda* Janson ツマクロキタヨウ
 18. *Conosteryx mahagura nipponica* Verity スジボソヤマキタヨウ
 本種10月に入ってからで老陽気のよい日などには見うけられる。

マダラタヨウ科 *Danaidae*

19. *Castula tytia nipponica* Moore アサギマダラ
 北部に比較的多く見られる。

ジヤノメタヨウ科 *Satyridae*

20. *Minois dryas bipunctatus* Motschulsky ジヤノメタヨウ
 21. *Ypthima argus* Butler ヒメウラナミジヤノメ
 22. *Y. motschulskyi* Bremer et Grey ウラナミジヤノメ
 非常に個体数が少ない、年により発生量の消長がある。*
 23. *Mycalesis gotama scripshus* Fruhstorfer ヒメジヤノメ
 24. *M. francisca pardicus* Hewitson コジロメ
 25. *Lethe sicelis* Hewitson ヒカゲタヨウ
 26. *L. diana* Butler クロヒカゲ
 27. *L. callipateris* Butler ヒメキマダラヒカゲ
 北部では非常に多産する。
 28. *Aranda schrenckii menalcus* Fruhstorfer オオヒカゲ
 平地でも得られるが個体数は非常に少ない。

29. *Neope gnoschevitchii* Ménétres キマダラヒカゲ

タテハタヨウ科 *Nymphalidae*

30. *Apatura ilia substituta* Butler コムラサキ
 31. *Neatina japonica* C. et R. Felder ゴマダラタヨウ
 個体数は非常に少ない。本種が居るからオオムラサキも産する可
 能性が濃厚である。しかし筆者はまだ知り得ないのである。

(23) 4

32. *Dichorragia nesimachus nesioetes* Fruhstorfer スミナガン
本種は平地にも多産する。又個体数も多い。
33. *Simnitis camilla japonica* Shirô ^{Shirô} イシモンジ
51. *D. glorifica* Fruhstorfer アサマイサモンジ
本種は前種と混同しやすいが個体数は少なくない。
35. *Nepitis aceris intermedia* Pezom コミスジ
36. *Nepitis phillyra excellens* Butler ミスジタヨウ
年により発生状況が異なる様に思われ、概して少なくない。
37. *Anaschisus burejana* Bremer サカハタタヨウ
深山の山道などに静止しているのを沢山見かけることが出来る。
38. *Polygonia c-aureum* Linné キタテハ
39. *Kanessa indica* Herbst アカリテハ
40. *V. cardui* Linné ヒメアカリテハ
41. *Nymphalis xanthomelas japonica* Stichel ヒオドリタヨウ
42. *Kaniska canace no-japonicum* Siebold ルリタテハ
比較的平地に多く見つける。個体数は普通。
43. *Argynnis cydippe pallescens* Butler ウラギンヒヨウモン
44. *A. ruslana* Motschulsky オオウラギンヒヨウモン
45. *A. paphia paphioides* Butler ミドリヒヨウモン
46. *A. aradyomene* C. et R. Felder クモガタヒヨウモン
47. *A. sagana* Linné Fruhstorfer メスグロヒヨウモン

テングタヨウ科 *Libytheidae*

48. *Libythea celtis celtoides* Fruhstorfer テングタヨウ

シジミタヨウ科 *Lycimidae*

49. *Japonica l. l.* Hewitson アカシジミ
非常に個体数が多い、次種三種と共に六月上旬の日没前に雑木林
上を活潑に飛翔しているのはすばらしいものである。
50. *Japonica caespitica* Hewitson ウラナミアカシジミ
前種と同属であるが個体数は少く少ない様である。特に平地に

普通である。

51. *Anaragi enthea* Janson オナガシジミ
 食樹のワルミは到る所に見えるが、まだ採集して居ない、しかし
 確実と見てよい。
52. *Antigius attilia* Bremer ミズイロオナガシジミ
 アカシジミと同様である。多数の個体を得ることが出来る。本種
 と次種は冬期の採卵が容易である。ミズナラ、カシワの枝上の休眠
 芽又は小枝末端の又、凹所に見られる。
53. *A. butleri* Fenton ウスイロオナガシジミ
 前種と全く同様である。
54. *Antopistes pygmaea* Murray ウラゴマダラシジミ
 多くない様である。採集は2個体のみである。
55. *Tanonius orientalis* Murray オオミドリシジミ
 個体数はまだ明らかでないが、割合多いのではないかと思われる。
56. *Ahlbergia ferrea* Butler コツバメ
 早春に相当多数見られる。
57. *Archopala japonica* Murray ムラサキシジミ
 平地では非常に多く、早春から晩秋まで見られる。特に晩夏に多い。
58. *Lycuena phlaeas daimio* Seity ベニシジミ
59. *Taraxa kamada* Druce ゴイシジミ
 郡北部の500m~600mの地域に多数発生する。しがも秋10月上
 旬迄多数見られる。
60. *Curetis acuta paracuta* Nicerville ウラギンシジミ
 普通である。個体数も多い。
61. *Zizyeris maha argia* Menétrés ヤマトシジミ
62. *Zizina otis alope* Fenton タイワンコシジミ(シルビアシジミ)
 他部から知られているが、今年(1952)春1頭採集す。
63. *Celastriana argiolus ladonides* de l'Oray ルリシジミ
64. *C. sugitanii* Matsumura スズタニルリシジミ

(25) 6

今春(1952)5月3日、郡北部(鳥取県境近く)国有林で早番20
数頭採集した。本種は水たまりなどに群居し、五月のハエの如くであ
る。今までは未記録の種である。これは発生時期の關係と思う、五月
と云えど山の随所に2~3尺の残雪を見るのである。

65. *Everes argiades seitzi* Wunleomsky ツバメシジミ

66. *Lampides boeticus* Linne ウラナシジミ

北部山地まで産す。栽培植物(小豆、大豆等)があるところには
普通。

セセリチョウ科 *Hesperiidae*

67. *Erynnis montanus* Bremer ミヤマセセリ

早春から見られ、平地では普通

68. *Daimio tethys* Menelais ダイミョウセセリ

本種は f *Daimio tethys felderi* Butler で普通

69. *Choraspes benziana japonica* Murray フオバセセリ

70. *Isotrinon lamproscilus* C. et R. Felder ホソバセセリ

71. *Achlodes ochracea nikuchina* Butler ヒメキマダラセセリ

72. *Parnara guttata* Bremer et Grey イタモンジセセリ

73. *Polytremis pellucida* Murray オオクヤバネセセリ

74. *Halpe varia* Murray コクヤバネセセリ

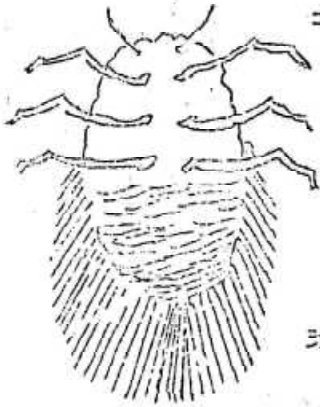
以上が現在明らかなるものであるが、今後発見される可能性あるものが
多数ある様に思われるが先ず中国地方(中国山脈)と近畿地方の境にあ
たる地としての蝶相の第一報を記した次第である。

(12月9日記)



4 月 (編集部)

去年の秋頃から、一度研究会を
開きたいと考え、役員会を開くたびに
議題にとり上げられておりましたので
すが、拙々都合がありまして仲々とはり、遂に学生の人選の入試、期考試
の終つて暇な4月がい、だちうと云う事になりまして、漸くは後編をお知らせす



いせりやかいからむし の 研究

津山市林田小学校
第六学年

能勢登美子

私は此の夏休みに理科の研究を何かやってみたいと思い、母にも相談してみたところ、母も色々と考えて下さいましたが、ほかほかいいのが見つかりません。どうしようかと思っておりましたところ丁度私の家へ『みかんの鉢植え』があつてそれに毎年いせりやかいから虫がついて困るの思い出し、今年もついでるのでこれをする事に決めました。

① 先ず第一に形と色の観察をすることにしました。成虫。幼虫。卵とにわけてしてみました。

成虫 —— 白ねずみ色で真上より見ると、丁度よめが傘という風ようです。横から見ると、“みのがめ”のようです。ほんとにおしりのところの白い毛のようなものがみのそっくりの形です。からだ全体丁度白かきがわいたようです。足はどこにも見えるじん。木にじつとくっついて動けません。一ヶ所に五匹も六匹も集つていてじつとくっついていいます。

幼虫 —— 赤茶色でからをぬいだ時は、火んじ色をしています。丁度がめが卵から身を見を少しのぞけているのに大変よく似ています。じつと木にくっついて動かぬのかと思つたら案外よく動いて“がめ”がもさもさはつている形にそっくりです。

卵 —— 柿色をして“パール”もかけてあるように何とも首

(27) 8

えたい楽しい卵です。楕円形をそつと引を伸ばしたような形をしていて、0.5mm位の長さです。針や、ピンセット、針などで一寸つつくとすぐ小さく崩れてしまいません。

- ◎ 二日目には生きている様子の観察をしました。幼虫から成虫にならないうちのから活の変って行く様子。

はじめの段階ではよく見えぬ小さな赤茶色をしています。4.5日おしますと、1mm位になつてやうと形などがわかる位になります。ぼつぼつ白い2mm位の毛のようなものが、からだ全体に出来て、何だかクマクマの粉でまかれたようになっています。

10日目たつてから、白いからをぬいで、からのそばに『こいえんじ』のからだであの長いひげのような、のはからの方についていて、からだの方には少し短かいえんじ色のひげが光るものがはえている。

2.3日すると、蟻茶、白ぬすみになつて来た。7日目位には又白くなつて来た。そそそと葉の裏をばつて行く。かいがら虫は、はわはわいのかと思つていたら、幼虫の時はほかほか。くまうことを知りました。

11日目には又からをぬいでいました。これは大きくなるためにぬいでいるのだと思います。それはぬいで行く度に、くまう大きくなるのが目立つことによつてわかります。

7日目からをぬくと、今までのからだよりぐつと大きくなり動かなくなります。これで成虫になつたわけです。

めすばかりのようでおすはすことを見つかりません。ふしきになりませんで荒生におきましたところ、おすは能がまつてしまつたのがさうです。

- ◎ それでは、何を食べて生きているのでしょうか

これを、いんごの葉を食べて見ると、ふちに『吸盤』がついていませす。それで葉の裏や、幹に吸いつくのです。又鰓の側の前足と前足との間にも『吸盤』があり、この方が吸いつく力が非常に強いのです。ちよつと引っぱつた位では、離れません。こうした吸盤によつて、木の養分を吸い生きて行くのです。

幹の背くやわらかなと、二つや、葉などにたくさん居るのも、水分を吸いやすいからだと思います。

⑤ 次に虫がついてからのみかんの木の様子

環線と、葉しい葉と、幹の成虫のついているところは、いつの間になつたのか知らず知らずのうちに、うす黒くなつて『がが』がわいていっているようになつて、います。なぜ黒くなるのか私にはどうしてかわからない。始めは黒くなつて行き、だんだん木が弱つて行くのだらうと思ひました。あとで先生におき、したところ、これが『すす病』だとおつしやいました。

⑥ それから枝を折つたり、木を他の木とかえてやつたりして、それになえる力をみました。

○ 虫のたく山ついた二枚の葉をとつて、一週間おいて置きました。

はじめの5日位は、まだ元気のようにでしたがだんだん弱り、とうとう9日目には、ほとんどがかわいたようになりました。死んでいるのです。

○ それからみかん、椿、もみじと三種の木へ同じ位の大きさの幼虫を1匹ずつくっつけました。ところが始めのうちは、あまりくべつがつかせませんでした。だんだんついて来て、みかんの木が一番元気よくぐんぐん大きくなって行き、もみじ、椿はどちらも大きくなりません。何故だろうかと先生にお聞きしたところ『いせりやかいがら虫』はみかんの木に特によく育ち、繁殖するのだとわかりました。

○ 9月23日、母と二人である暇へお伺いしたところ『ほんてん』の木はかいがら虫の大きいのがたくさんくっついていたので、母にいつかところそれをいたさうとお願いしようといわれ持って帰りました。帰つて調べてみると、みかんの木についているのとよく似ていました。かいがら虫には、色々名前があることは聞いていたのですが、つく木によって名前が違うことははつきり知りませんでした。そこで私は、『いせりやかいがら虫』は、みかんの木に特によく育つと聞いていたので、どうも不思議に思つて来ました。みかんの木の皮を剥つて、た

んでんの木にくっつけて、育つかどうか試してみたくなりました。

丁度んでんの木の若いのが家にあるので、みかんの木にいるのをくっつけてみました。5日たって見ましたところ、おしりのかげがくっつけた時とあまり変わっていません。1週間位して調べてみましたが、どうも余り変わりがないようです。

農事試験場へ行っておじさんにお聞きしたところ、んでんの木につくのは、やはりいせりやかいがら虫ですが、このことを『わたぶき』ともいうと教えて下さいました。3、4日してから虫をみたところあまり変わりはありません。虫を引っぱってみるとすぐ離れました。みかんの木にくっついているのは、引っぱった位ではなかなか取れないのにおかしいと思いました。又くっつけておきました。どうもんでんの木では育たないような気がします。

これはみかんの木から虫をはなすので虫がどうしても弱ります。弱ったのをみかんや他の木へくっつけると、特によく育つみかんの木ではどんどん大きくなるが、外の木では大きくなれないのだと思いました。

④ 次に虫がいためられてそれにたえて行く力をみました。

私は成虫のおしりの所にある卵を全部とって、又木へくっつけておきました。どんなになるだろうかと思って毎日見ておりましたが、案外平気で弱らないで卵もどんどん生み出しておりました。

⑤ それからみかんの産地でこの虫のために大変困っているということを知ったので、薬にたえる力について調べてみるければならないと思いい調べてみました。

お扱はたばこが虫には割合よくきくことを聞いていたので、煙草を少しの水につけておきますと茶色になるので、その液の中へ幼虫を2、3匹入れました。どんなことになるだろうと虫めがねを持って来てじつと見ていました。足を盛んに動かしていましたが又今位で死んでしまいました。案外煙草はきついのだと、思いました。この時一しよに水にもつけて見ましたが、これは割合時間がかかりました。朝8時頃つけたのに、おひる頃見たらまだ生きていました。なかなか死なない

(31) 12

のにおどろきました。これは成虫を入れたのです。

○それから次に『とうがらし』の毒い若の赤くうれたのをちぎって水の中につけよくもんでその汁の中へ幼虫を入れたら5分で死んでしまいました。成虫を入れたら1時間位はかかりました。又木にくっついていてる幼虫へ、『とうがらし』の汁をかけたところ、30分位して虫を取ってみたら死んでいました。

○深山湖畔のある人からお話を聞いたのですが、さんしよの木のを皮を剥いてその液をかければ大分冬冬目があるとのことでしたので、これをやってみたいと思ひ実験したところ少し煎じ方がうすかったのかやはりとうがらし位はかかりました。

② 最後にまとめとして

いせりやかいがら虫は、みかんの木にとって大変有害虫で非常に勢いで繁殖することが良くわかりました。みかんのできる地方ではこの虫を大層恐れているそうです。此の害虫をどうして駆除したらよいかについては、皆困っておられます。私の実験で煙草はよく効いたのですが、あれは1匹ずつ木についているのを取っては入れたのですからたくさん木に、しかも多くの虫がついてるのをいちいち取っていたのではたまりません。又木についている上へかけたのでは、効き目が非常にうすいのです。

農學試験場へ行って駆除法をお聞きしたら、松やに合劑やら、青酸ガスくんじようなどがあるそうです。それからベダリヤてんとう虫をかってそれに虫を食べさせるのだそうです。

こうした割合よくさく薬が出来ているそうですが、完全とは言えないそうです。駆除するのは成虫にほらぬ中にしほければいけません。それは抵抗力が弱いのと、吸盤が白いひげのためかくされていなので、薬を多く吸取出来ずらでしよう。

私は一っよくさく薬を考案してみたいのです。そうして蜜柑の増産が出来たらと、心の中でそれをするのしみにしているのです。

薬に出来る力についてはまだまだ色々と調べてみるつもりです。

私は此の研究で自然の力と云うものにほんとは面白味をおぼえました。今まで気にもとめなかつた小さな虫にでも、研究すればいくらでも研究が出来ることを知りました。私の研究はまだまだ完成しては居りません。しんぼうと、ねばり強さが大切です。完成するまで一生懸命頑張ります。

これで私の発表はあわります。 (昭和24年10月)

〔附 記〕 本論文は、昭和24年の秋、岡山博物同好会主催第三回学術博物コンクールに於て最高特選で大原賞を授けられ表彰されたものである。尚本論文には外にかなり図がありました。編集の都合で残念ながら割愛させて頂きました。 (編集者)

◆ ◆ ◆

津山東部に於ける *Zizina otis alope* FENTON シルヴィアジジミに就て 安東 瑞夫

当縣に於ては既に岡山、倉敷市外黒田、総社から知られているが総社を除けば記録的たそので稀なものであるらしい。又小坂知彦氏の岡山縣産蝶類目録(岡山博物同好会会報「予報」その一 昭和21年)にも記録されており“珍稀”とされている。(産地不明)

筆者も昨年から当地方の本種に少なからず興味を持ち分布状態を調べて来たが、本地方一帯には広く分布し比較的豊産することを知った。しかし小地域的にはミヤコグサの自生する地のみ多く近似のヤマトシジミの如く至るところに産すると云うものではない。

垂直分布から見ると200乃至300m位の地域で見られ時に400m前後の地帯からを得られている。確認し得た産地を列挙すると次の如くである。

おとしぶみ

オオムラサキ

Sasakia charonda HEWITSON

本種は岡山縣には少いものらしく採集記録は餘り見当たらない。作東地方からは2ヶ所の産地が知られているので、こゝに纏めて報告し

ておく。

- 1) 英田郡大原町 (Vol.2, No.2 参照)

大原中春名正之氏による。筆者も實に見事な標本を数頭拝見している。

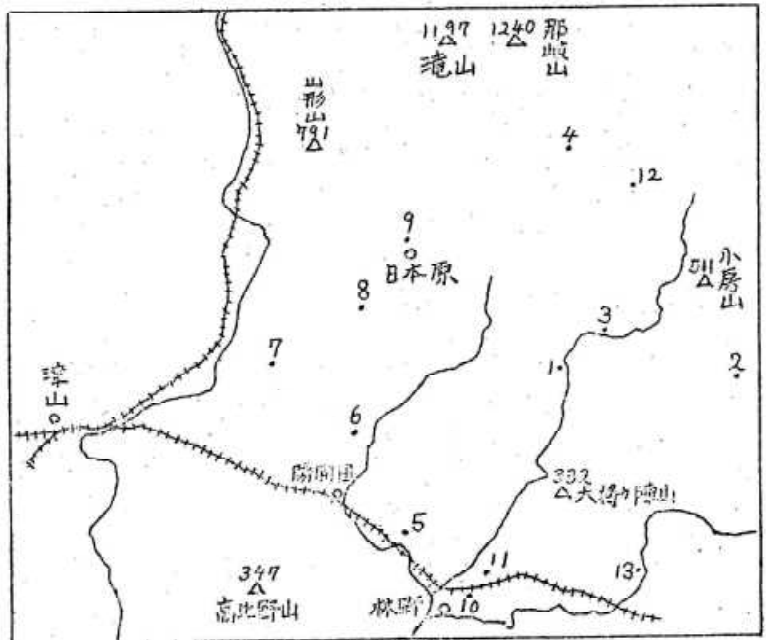
- 2) 勝田郡豊並村 (那岐山麓)
VII.25.1950 1♀ 筆者採

(前頁より続く)

- 1) 勝田郡勝田町真加部
- 2) 英田郡粟井村志越峠
- 3) 勝田郡勝田町余野
- 4) 勝田郡豊並村高園
- 5) 同 郡勝間田町黒土
- 6) 同 郡植月村長良
- 7) 同 郡広野村ハケ原池

- 8) 勝田郡陽加茂村原
- 9) 同 郡広戸村日本原
- 10) 英田郡猫原村沢
- 11) 勝田郡豊園村豊園原
- 12) 同 郡豊並村皆木
- 13) 英田郡江見町藤生

尚片山曾八氏 (津山市在住) のお話によれば津山にも多産する由である。終りに江見地方の本種に就て御敬示賜つた林野中淳枝 道信順氏にお礼中上げる。◎以上の記録を地図上にplotして見た。参考までに。



VIII:9・1950, 1♂ 筆者採

VIII:3・1952, 2頭

松井俊公氏1頭

筆番1♂(近藤光宏氏
所蔵)

(安東瑞夫)

本年のモンシロチョウ
の初発

今年は春が早くやって来たようである。2月中にも暖い日が多かった。や、早い記録がわからないが、2月18日午後2時30分頃、津山線で法界院から岡山へ向う途中、鳥上を飛翔中の本種1個体を車中より見たので報告する。当日は晴天で風弱く温暖であった。これは本地方に於けるこれまでの記録から見て例外的に早い記録とは云えたい。(小野 洋)



生とみのむし

小野千鶴

冷たい木枯しの吹く頃に、庭の柘榴の木の枝に垂れ下がっているみのむしを見てふと思うことがある。丈夫な着物でつ、まれて、何時もゆらゆら風に吹かれながら、みのむしは何を考へて生きているのだろうか。どんなに寒い日でもそのんびりと、そしらぬ顔をしているみのむし。

おとしぶみ

倉敷の

アカスジツチバチ

本種 *Scolia multifrons* SAUSSURE は、紫色光澤を呈する黒色の体に、第三腹節には一對の橙黄色紋を有する美麗種で、本州九州に産する。本地方でも他のツチバチ達に混って多少おもむきを異にする存在である。筆者は本種を1951年7月28日に倉敷市羽島山で1♀採集しているので報告しておく。本地方でも産し(量産しない)。

(小野 洋)

訂正 Vol.3, No.2 おとしぶみの
オジロサナエの文中、勝田郡勝田
町久賀の記録を次の如く変更します。

1♂2♀ 筆者採集

1♀ 白畑清太郎氏所蔵、

1♂1♀ 筆者所蔵、
(安東瑞夫)

人間の生涯にき一便は必ずこゝろ裏面がある。小曾環りの足が、旅の
心算をけずり取って行く。そして何人かの人には遂に倒れてしまつたりす
る。近頃幾度か暇出、自説の記述が新聞の三面に出る。何故彼等は腹を
借が出し自ら倒れようとするのか。借借に取って、本當にやらざるまで
写折れ矢盡きたのだからか。

私にはそうは届初れたい。大抵の場合には、そういう人は考えるべき
ことを考へないで、すべてをこころをしいでいる場合が多い。その時まで
の彼らの生きて来た道程で、生きることの如何にすばらしいことである
かを感じしめるような大きな歡喜の瞬間はなかつたであろうか。離れも遠
い離れ出の中に耐えているその瞬間を、再び思い起すことは容易である
はずである。みのむしは来たるべき春の暖かい日光を思ふ。人間は笑と
涙と歡喜にあふれる未来のために必ず生きなくてはならない。そしてそ
の時こそ自己が死すべき時がわかる。まるでそれが神の声でももあるか
のように、自分の心の中に自分の死の一瞬を認め得るはずである。

冷たい冬の風の吹く庭で、私は静かにみのむしに頬ずりするのである。

★住所変更

45 安東瑞夫

(銀行員)

編集後記

ヒバリ
は高く
高く
ヒバリは高く、山は遠くにかすんで見えま
る。足元にはモンシロチョウが舞い、川の水
もぬるんでなにやらにぎやかです。もうす
かり着ですね。すばらしい天気をよむ。懸
命にがりなまきついろのは、どう見ても顔知し
ませんよ。

今月号は多くの方が試験で忙しか
たせいか、特に“おとしぶみ”が不揃で
した。しかし数々の長篇報文がそれと
おきかたっております。原田北雄の南方
紀行今月号はお休んでした。

皆様にはもう今年の研究計畫
を立てられ、てごすねひいて歸つて
おられる事と思います。じつとこうし
ても、しずかに春の光のさす山路
に越冬したキョウや、真新しいキョウが
赤花に花が咲く、さす山路のツバキ
の花が目にしみて来るようです。アは死
んで宿願の上、又としは宿願が下り

すずむし 第3巻第3号

昭和28年3月14日 印刷

昭和28年3月15日 発行

編集者 小野 洋

印刷者 小野 洋

発行所 倉敷市住吉町

岡山大学大原農薬研究所

作物害虫研究部

倉敷昆虫同好会